

令和 7 年 4 月の解説（府県天気予報）

【4 月の天候状況】

上旬は、全国的に天気は数日の周期で変わったが、北日本日本海側を中心に低気圧の影響を受けやすかった。このため、旬間日照時間は北日本日本海側でかなり少なく、北・東日本太平洋側と東日本日本海側で少なかったが、低気圧はあまり発達しなかったため、旬降水量は北・東日本日本海側で少なかった。東日本太平洋側では 1 日から 3 日頃にかけて南岸低気圧の影響を受けたため、旬降水量は多かった。一方、西日本は高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かった。沖縄・奄美は 1 日と 10 日頃に低気圧や前線の影響を受けたため、旬降水量は多かった。旬平均気温は、期間前半は沖縄・奄美を中心に寒気の影響を受けやすく、期間後半は北日本を中心に暖かい空気が流れ込みやすかったため、沖縄・奄美でかなり低く、北日本で高かった。

中旬は、全国的に天気は数日の周期で変わったが、13 日から 16 日頃に低気圧が北日本付近をゆっくり通過したため、北日本を中心に曇りや雨の日が多く、北海道地方では 4 月として記録的な大雨となった所があった。このため、旬降水量は北日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多く、東日本日本海側で多かった。北日本日本海側では平年比 279%と 1946 年の統計開始以降で 4 月中旬として 1 位の多雨となった。また、旬間日照時間は北日本太平洋側でかなり少なく、北・東日本日本海側で少なかった。一方、沖縄・奄美は、高気圧に覆われやすかったため、旬間日照時間はかなり多かった。旬平均気温は、17 日から 20 日頃に南高北低の気圧配置となって暖かい空気が流れ込みやすかったため、北・東日本でかなり高く、西日本で高かった。

下旬は、全国的に天気は数日の周期で変わったが、北日本では低気圧の影響を受けやすく、特に 29 日頃に北日本付近を通過した低気圧により、まとまった降水があった。一時的な寒気の流れ込みにより、北海道地方の平地でも積雪となった所があった。このため、北日本日本海側と北日本太平洋側では旬降水量が多く、旬間日照時間が少なかった。一方、東日本以西では高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かった。このため、旬降水量は東・西日本日本海側と西日本太平洋側で少なく、旬間日照時間は西日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。旬平均気温は、旬の前半中心に本州付近に暖かい空気が流れ込みやすかったことから、東日本で高かった。

【4 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 3 ポイント低い 85%で、明後日予報は例年値より 2 ポイント低い 84%となった。地方別の適中率では明日予報は北海道、東北、関東甲信、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値を上回った。また明後日予報は東北、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部地方では例年値を下回ったが、その他の地方

では例年値と同じか例年値を上回った。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値と同じ 1.5℃で、北海道、東北、沖縄地方では例年値より大きくなったが、その他の地方では例年値と同じか例年値より小さくなった。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値と同じ 1.1℃で、中国、九州北部、沖縄地方では例年値より大きくなったが、その他の地方では例年値と同じか例年値より小さくなった。

(注) 例年値は 2015 年～2024 年の平均値です。

【6 月の天気予報の利用にあたって】

平年では、6 月の中旬ごろには全国的に梅雨入りとなります。梅雨の時期は、他の季節に比べて大雨が発生しやすく、山崩れ、地滑り等の土砂災害、河川の増水や氾濫、低い土地の浸水などの災害をもたらすことがあります。大雨が予想される場合には、最新の気象情報や早期注意情報、大雨・洪水の注意報、警報の発表状況にも留意してください。